

池田町総合教育会議 議事概要

- 1 開催日時 平成 30 年 1 月 10 日（水）13：00～14：00
- 2 場 所 池田町文化交流会館 2 階 大会議室
- 3 出席者 委員 6 名 関係者 1 名 事務局 3 名 計 10 名（欠席者なし）

【委員（役職名）】

佐藤 秀幸（教育長職務代理者）
佐飛 正美（教育委員）
宮本 純子（教育委員）
岸本 英明（教育委員）
杉本 博文（池田町長）
内藤 徳博（池田町教育長）

【関係者（役職名）】

溝口 淳（池田町副町長）

【事務局（役職名）】

山口 正幸（池田町教育委員会事務局課長）
田中 喜美子（池田町教育委員会事務局参事）
村中 国彦（池田町教育委員会事務局主事）

4 開 会

5 町長挨拶

今回は前回の協議内容の続きと今後の学校教育の向上を図るために、委員のみなさんのご意見を伺いながら組み立てていきたい。

6 教育長挨拶

教育大綱の改訂、教育環境向上化プランについて、みなさんの建設的な意見を賜りたい。

7 協議事項

町 長

前回と大きな変更はないが、付け加えや整理した点がある。今後の池田町学校教育の推進施策については、「池田町における学校教育のあるべき姿および課題

の共有を図るとともに、関係機関の相互連携をもって池田町教育行政の推進と信頼の回復に臨む」と掲げ、我々は課題を共有して連携をもって取り組む。また、テーマ（仮案）『学ぶ力・和する力・生き抜く力を育む子育て教育の推進』、『小規模の利点を活かし不利性を克服するために、三位一体（家庭、学校、社会）で育む子育て教育の推進』を図っていく。

次に、今回の協議事項は2つ。まず大綱改訂に向けた取り組みについて。

（以下、別添資料により町長案説明）

町 長

大綱改訂について、委員の皆さんのご意見を伺いたい。

町 長

とくにご意見等がないようなので、次に進める。

町 長

次に、教育環境向上化プランの実行について。

（以下、別添資料により町長案説明）

町 長

向上化プランについて、委員の皆さんのご意見を伺いたい。

委員C

「まーるいテーブル会議」には、保護者がたくさん参加できるのか。

町 長

様々な意見を聞くことは必要だが、みんなが参加するのは厳しいかもしれない。PTA会長や副会長など、まずは代表者による会議が望ましいのではないかと。

委員A

部活バックアップ事業のことだが、先生自身が経験したことがない部活を指導するという事は、とても大変なことだ。文部科学省において学校から部活動を切り離す案があるみたいだが、学校外の方が部活を指導するときには注意が必要だ。事故の時にどうするのか、責任は誰が取るのかなど。また、生徒を教えるときの言葉遣いは適切か、また体罰はしていないのか、などをチェックできるのか。昔から部活動が先生の負担になっていた面があり、その分授業への準備が手薄になる。部活バックアップ事業についてもっと議論を深めていく必要がある。

授業の相互観察について、池田町ではこれまでも幼・小・中の合同研究で取り組

んでいる。異年齢集団の取り組みもしている。昔は年長が年少のことを気にかけ、面倒を見ていたが、今はあまりない気がする。異年齢の子どもたち同士の関わり合いは、先生と子どもたち、また、同学年同士の関わり合いより、自然と相手をいたわる心を育むような良い面がある。

アンケートの取り方についてはよく検討する必要がある。無記名で取ると、とんでもない意見が出る場合があるし、記名にすると遠慮して本心や批判を書かない。また、アンケートを取ったままにするのもいけない。保護者へも内容を通知しないと、徐々にアンケートを書かなくなる。

町 長

組織というものは何か問題があると内部解決型になる傾向があるので、アンケートは公表した方がよいのではないかと。内部解決を全否定するものではないが、社会から見られているという感覚をもつことも必要ではないか。

学校教育育成会議については、保護者の参加というより、先生や管理職、行政や専門家を交えた会議と捉えている。会議自体の形骸化を防ぐために、内容もそうだが会議自体を開けたものにしていく必要がある。

ローカルティーチャーについては、学校の先生を指揮監督することではなく、あくまで学校の先生のうしろについてバックアップするものだ。あくまで主役は学校の先生である。

委員D

「見て、見せて授業」は、授業者も参観者も経緯や目的を理解して臨み、どちらも「子どもたちのために」という共通の思いで進めたい。

町 長

これらの向上化プランは、上からの説明や押しつけではいけない。納得してもらわなければならない。一気にしていくものではなく、説明をしながら安心感をもっただきながら徐々に進めていかなければいけないと思っている。学校だけの負担にならないように、チーム池田としてそれぞれが立場を活かしながら役割を分担していく。

委員B

まずは何か1つでも良いのでやってみて、少しずつ理解しながら進めていくのが良いのではないかと。他の職場でもあることだが、学校やPTAはお互い本音を言い難い状況があるかもしれない。そういう場合に、それらをつなぐ人や体制が必要である。

委員C

全国の模範となるような、全国一の教育現場をつくっていきたい。

委員 A

学校の風通しを良くするというのが理想である。生徒が色々な人に相談できるような状況が必要である。例えば養護教諭の先生には悩みが打ち明けやすいとか、また、地域のこの人なら言い易いなど。地域の方がもっと学校に入っていけるようにしていくのが良い。しかし、地域の人でも普段の生活で忙しく自営の方や教育に関心のある方が中心となってしまうなど課題も多いだろう。

町 長

教育ほど社会で大切なことはない。池田の子どもはすごいとか、バランスの取れた子に育てていきたい。教育大綱改訂に向けて、このような議論をしていくと、社会や行政が果たす役割が見えてくるのではないかな。

それでは今議論した方向で前に進んで行きたいと考えますが、委員の皆さんよろしいかな。

委員全員

異議なし。

8 閉 会